

どこの森林整備に 税が使われているの

県内の荒廃した人工林や長期間放置されヤブ化した里山林などの森林整備に使われています。また、神奈川県の重要な水がめとなっている桂川流域の一部の水源林については、神奈川県と共同で整備に取り組んでいます。

事業による効果を教えて

税を活用して実施している森林整備について、事業効果を検証するため、県内の14箇所において、モニタリング調査を行い、結果を基金運営協議会に報告するとともに県ホームページで公表しています。

国の森林環境税と何が違うの

令和6年度から徴収される国の森林環境税は、市町村が主体となって、地域の実情に即した取り組みを実施します。県内の荒廃森林の解消については、県税による基金事業と併せて森林整備を推進していきます。

森林環境税

I 多様な公益的機能の維持・増進を図る森づくり

1 荒廃森林再生事業

荒廃した民有林の人工林を針葉樹と広葉樹の混じり合った森林に誘導するための間伐を行います。間伐によって、森林内の樹木や低木、地表の植物の生育状況が良くなることで、水を蓄える、土砂崩れを防ぐといった森林が持つ機能が高まります。



2 里山再生事業

長期間放置され、ヤブ化した里山林において、不用木や竹を除去することにより、明るく開放的な里山林に再生します。里山林の再生により、周辺地域の景観が改善され、林内の見通しが良くなり、野生動物が人々の生活域に侵入することを防ぎます。



3 広葉樹の森づくり推進事業

伐採後に森林の状態に回復していない林地に広葉樹を植栽します。植栽した広葉樹が成長することで、森林が持つ機能が高まります。



県では、本県の森林を県民引き継ぐために、森林環境成24年～令和13年度で森林を解消することを目標増進を図る森づくり、「木進」、「社会全体で支える掲げて事業を行っています。

II 木材・木質バイオマスの利用促進

未利用材活用促進事業

(4) 木材利用・普及啓発

脱炭素社会の実現に向け、林地内に残されている未利用材（伐採時に発生する末木枝条等）の運搬経費を助成し、バイオマス資源としての利用を促進します。



III 社会全体で支える

県民参加の森林づくり推進

(4) 木材利用・普及啓発

森林整備現場見学会の開催や、情税がどのように利用されているかの周知を図ります。

どうして森林は大切な

県土の78%を覆う森林は、木材を生産するだけでなく、土砂災害を防ぎ、県民の生命や財産を守るとともに、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなど、私たちの暮らしと切り離すことができない大切な働きを有するからです。

どうして森林環境税を導入したの

民有林の中には整備が行き届かず、荒廃が進んでいる森林が多く見られるようになり、森林の働きの低下が懸念されています。こうしたことから県では、平成24年から森林環境税を導入し、森づくりを進めています。

どうやって税を管理しているの

目的とする施策を行う財源とするため、既存の税金と明確に区別して「山梨県森林環境保全基金」に積み立てて、適切に管理しています。

どうやって使い道を決めているの

県民の皆様等へのアンケートや、学識経験者、納税者である県民・企業関係者などから構成される「基金運営協議会」で意見や提案をいただき、それらを参考にして決めていきます。



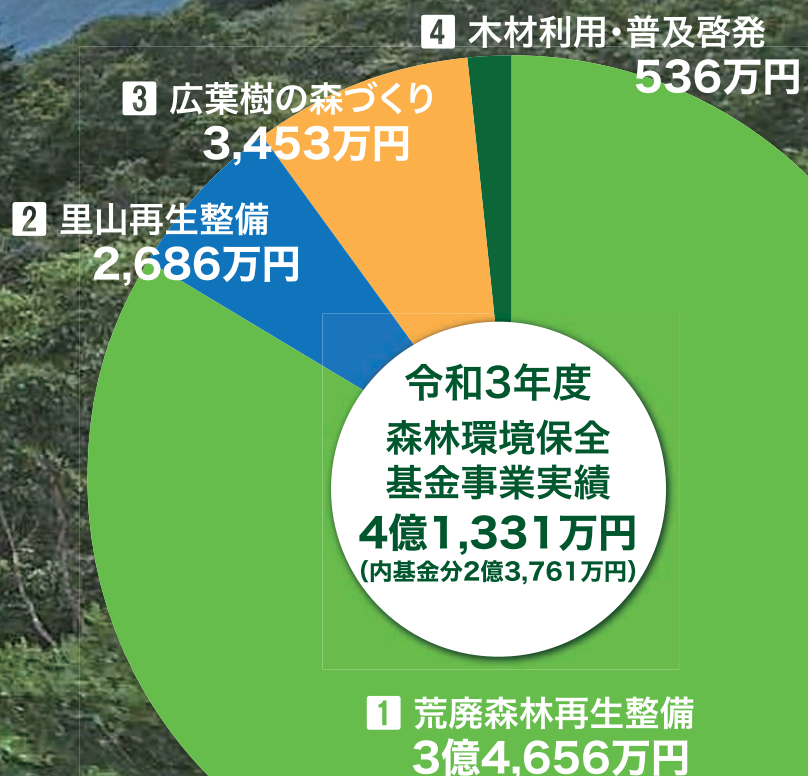
モックくん

Since1991

山梨県産材普及
トレードキャラクター

についてお答えします

全体で守り育て、次の世代に税などを活用し、4期20年(平19,000ヘクタールの荒廃に「多様な公益的機能の維持・材・木質バイオマスの利用促進仕組み」の3つの基本施策を



仕組み

事業

報誌を発行し、
県民の皆様へ

